



発行所 高知市丸の内一丁目3の30 全国林野関連労働組合 四国地方本部 TEL821-2238 発行責任者 平松龍之典

当面の日程

- 2024 / 10 / 18 全国代表者会議 (東京都)
2024 / 10 / 19~20 青年女性委員会地本間交流 (九州・四国・近畿中国地本) (広島市)
2024 / 11 / 9 高知県緑の環境会議第38回総会及び記念シンポジウム (高知市)
2024 / 11 / 22~24 2024年度新採労働学校 (東京都)

窓口メモ

- ◇児童手当法の改正に係る対応について(9/10)
◇請負事業体等における重大災害の発生について(九州局)(9/11)
◇2024年度国家公務員健康週間の実施について(9/25)
◇2025年度暫定再任用に関する意向確認の実施について(9/27)
◇諸手当に係る注意喚起の実施について(9/30)
◇車両のリコールについて(10/7)
◇公務災害の発生について(9/1)

第20回地本青年女性委員長会議

青年女性運動の前進に向けて 安心して働き続けられる職場をめざして

【青女・白石常任委員】

8月24日、25日、林野労組四国地本第20回分會青年女性委員長會議を開催し、各分會青年女性委員長及び傍聴者含め26人の仲間が参加しました。

冒頭、荒牧青年女性委員長より「同じ環境に身を置く仲間同士、悩みを話し、聴く場を設けることで、仲間を助ける、お互いを知る良い機会にすることに加え、来月2月に実施する総務企

画部長交渉に繋げていこう」と本委員會議の意義・目的について挨拶がありました。全体討論では各分會から2023年度の運動の総括が報告され、その中には「業務負担の増加や、分會内でも、署と事務所配属で距離があることから集まる場を定期的に設けることが難しい」「ラインを使用し

て話し合いの場を確保している」「他分會と合同で定例会を実施した」などの集まり話し合う場の確保に向

けた取り組みが報告され、分會活動について全体で相互討論を行いました。分散討論では「職員間の意思疎通の機会がなく、働きづらい状況になっている」等の生活・職場における実態を共有し、議論を深めました。

また、青年女性委員會議で取り組みを進めている「ブロッカー制度」(距離が近い2分會合同で活動する)については、「範囲を拡大することで、様々な意見が出

されることに繋がり、話し合いの意義が深まる」等の意見が出されました。最後に誰もが安心して働き続けられる生活・職場環境を作っていくことを確認し、荒牧青年女性委員長の

第20回青年女性委員長會議の2日目は、ボウリング大会を実施。前日の懇親會で飲み疲れている仲間もいましたが、大変盛り上がり、親睦を深めることができました。



先日、中国は福島第一原発にたまる処理水の海洋放出を受け、全面的に停止させていた日本水産物の輸入を段階的に再開させるとのニュースがあった。再開には日本側が要件を満たすことが条件で、再開の時期は見通せない状況とのことだ

ボウリング大会の風景

この処理水は、放射性物質であるトリチウムやその他の各類を含む「汚染水(A-LPS処理水)」として、漁業関係者や地元ならず諸外国からの反対がある中、23年8月24日から強行的に海洋放出が行われた。1年が経過し、これまで7回にわたり海洋放出を終えているが、徐々に放射性物質濃度の高いものを放出している。また処理作業では多くの災害も起きており、23年10月に汚染水処理施設で行われていた配管の洗浄作業中にホースが外れ、作業員に放射性物質を含む廃液がかけられ皮膚が汚染、入院する事案も発生している



先日、中国は福島第一原発にたまる処理水の海洋放出を受け、全面的に停止させていた日本水産物の輸入を段階的に再開させるとのニュースがあった。再開には日本側が要件を満たすことが条件で、再開の時期は見通せない状況とのことだ

「職場で働く上で相談できる方がいることを認識できてよかった」等の感想が出

た。参加した仲間からは「他署の業務内容や、仲間の悩みを知る貴重な機会だった」「職場で働く上で相談できる方がいることを認識できてよかった」等の感想が出

た。参加した仲間からは「他署の業務内容や、仲間の悩みを知る貴重な機会だった」「職場で働く上で相談できる方がいることを認識できてよかった」等の感想が出

た。参加した仲間からは「他署の業務内容や、仲間の悩みを知る貴重な機会だった」「職場で働く上で相談できる方がいることを認識できてよかった」等の感想が出

た。参加した仲間からは「他署の業務内容や、仲間の悩みを知る貴重な機会だった」「職場で働く上で相談できる方がいることを認識できてよかった」等の感想が出

た。参加した仲間からは「他署の業務内容や、仲間の悩みを知る貴重な機会だった」「職場で働く上で相談できる方がいることを認識できてよかった」等の感想が出



赤松代議員(全山労愛媛) 本分會からは、各地方森林労連からの意見等を踏まえ、取り組むを進めるとし、森林労連全國大會での議論を通じて、森林・林業・木材関連産業政策の推進をはじめ、未組織林業労働者の組織化等について、各地方で取り組みを進めていくことを確認しました。

た。参加した仲間からは「他署の業務内容や、仲間の悩みを知る貴重な機会だった」「職場で働く上で相談できる方がいることを認識できてよかった」等の感想が出

森林労連第35回定期全國大會

森林・林業政策の推進に向け 未組織林業労働者の組織化を意思統一

【報告・平松執行委員】

7月30日、森林労連第35回定期全國大會が東京都・連合會館で開催されま

した。森林労連四国地連からは、宮口・後藤代議員(林野労組)、赤松代議員(全山労愛媛)、黒瀬代議員(全山労高知)の4名と、傍聴3名が参加しました。林野労組の後藤代議員が

らは、林業現場で働く新規就業者の定着に向けた施策の充実、事業実行に係る林道維持修繕、整備の必要性について本部段階での取り組みの強化を求めました。また、全山労高知の黒瀬代議員からは、林業現場で

の労働安全衛生対策として、通信手段(機器)の確保等について、全山労愛媛の赤松代議員からは、緑の雇用による新規就業者の労働安全確保の取り組みなどについて本部段階での対応を求めました。

また、各地方森林労連からも、木材価格の引き上げ、公共事業として発注されている生産、造林事業の労働費単価等の改善、外国人材の受け入れ拡大に対する労働安全対策の強化などについて意見がだされました。

なお、本部から提案の全体的な議案は、全会一致で承認され、中村委員長の団結カンパローで閉会しました。

た。参加した仲間からは「他署の業務内容や、仲間の悩みを知る貴重な機会だった」「職場で働く上で相談できる方がいることを認識できてよかった」等の感想が出



▲写真上：荒牧委員長の音頭で団結カンパロー ▼写真下：参加者全体で記念撮影



後藤代議員(林野労組)



黒瀬代議員(全山労高知)



赤松代議員(全山労愛媛)

た。参加した仲間からは「他署の業務内容や、仲間の悩みを知る貴重な機会だった」「職場で働く上で相談できる方がいることを認識できてよかった」等の感想が出

四国地方 共済推進会議

住まいる共済への加入を

組合員、家族の生活保障のためにも

【報告・山中執行委員】

9月20日、高知市で「四国地方森林労連共済推進会議」が開催され、林野労組、全山労、林退会から、



全体で25人が参加しました。

会議には、森林労連共済推進本部より、中村恭士理事長、石原史貴事業推進職

員、太田礼子事業推進職員が出席され、2023年度の総括と現状分析を行い、2025年1月の契約更改に向けた取り組みについて議論、意思統一が図られました。

また、近年、自然災害が多発傾向にある中、災害の程度も大規模化していることや、共済金の支払いについては自然災害による支払

人からの損害賠償を請求されるケースが社会的に増えていることから、「個人賠償責任共済」(団体生命共済にも付帯することは可能)への加入を推進していくこととしています。

本部からは、2025年1月のセット共済契約更改に向けた現役組合員への共済加入推進活動の強化をはじめ、「住まいる共済」(火災共済・自然災害共済)の制度改正内容等について説明を受け、「類焼損害補償特約」「個別賠償責任共済」等の付帯推進、火災な

こうした「住まいる共済」への加入推進に加えて、他

多発傾向にある中、災害の程度も大規模化していることや、共済金の支払いについては自然災害による支払

況からも「自然災害共済」の付帯を進める必要性について再確認しました。

現在、「住まいる共済」

では、「無保障者をなくす取り組み」として、未加入者を対象とした見積りシートの回収を実施しており、「住宅保障見積りシート」については、分会共済担当者へ提出をお願いします。

第50回衆議院議員選挙

政治に無関心でも 無関係ではられない

組織討議資料

石破新首相は、自民党総裁選では、「予算委員会審議を経て国民の信を問う」と公言していたものの、手のひらを返して10月9日に衆議院を解散しました。



香川2区 玉木雄一郎 (国民民主・現職)



香川1区 小川 淳也 (立憲民主・現職)



徳島1区 高橋 永 (立憲民主・新人)



高知1区 武内 則男 (立憲民主・元職)



愛媛3区 越智 清純 (立憲民主・新人)

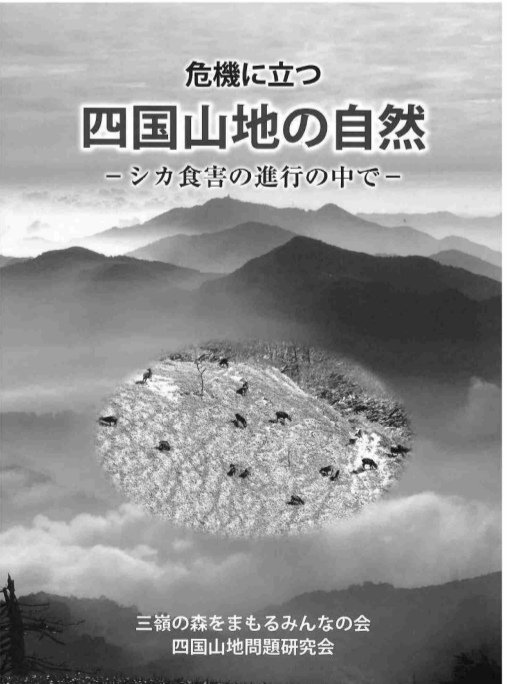


愛媛2区 白石 洋一 (立憲民主・現職)

このことにより、第50回衆議院議員選挙が10月15日公示、27日投票の日程で行われることとなりました。

地本は、6人の候補者を推薦しており、推薦候補の勝利に向けて、組合員、家族の皆さんのご協力をお願いします。

四国山地・石鎚山系におけるシカの進出と被害状況



高知県緑の環境会議シンポジウム

日時：11月9日 13時30分～16時00分 会場：四国森林管理局2階大会議室

高知県緑の環境会議は、11月9日(土)に第38回総会及び記念報告会(シンポジウム)を四国森林管理局2階大会議室で開催することとしています。

自然災害への備えを

住まいる共済 この機会にぜひお見積もりを! リニューアル/ 住まいる共済は2025年1月更改で制度改定が行われ保障が拡充します。 住まいる共済の備えが、家族の安心も高める見込みです。 住まいる共済の備えが、家族の安心も高める見込みです。 住まいる共済の備えが、家族の安心も高める見込みです。

米軍機の墜落事故から30年 超低空飛行訓練の中止を訴える



【村松通信員(四万十)】 10月5日、四国プロック平和フォーラム、護憲・原水爆禁止四国ブロック主催による「米軍機墜落30周年超低空飛行訓練中止を求め四国集会」が早明浦ダムふれあい広場(高知県)で開催され、四国各地から約130人が集まり、林野労組からは9人が参加しま

した。 1994年10月14日の米軍機墜落事故から30年が経ちますが、米軍機の墜落地点のすぐ近くには、保育所、役場、小学校や中学校があり、本場にコンマ何秒の違いで大惨事になっていました。 また、大川村での墜落事故後も土佐湾沖や土佐清水

沖など、幾度となく米軍機の墜落事故が発生していますが、米軍は事故原因の究明も十分に行わず、すぐに飛行訓練を再開し、日本政府もそれを容認している状態にあります。 米軍の飛行訓練のオレンジルートにあたる高知県嶺北地域上空では数百回にもおよぶ目撃情報があり、再び墜落事故が起きても不思議ではなく、超低空飛行訓練の中止に向け、粘り強く取り組んでいく必要性について再認識した集会でした。